

事業報告書

令和4年4月 1日から

令和5年3月31日まで

1. 事業の概況

本年度は「令和4年度～令和8年度 地方創生・経営健全化計画（5ヵ年）」の最初年度であり、2021年12月25日に本格営業運行を開始したDMV（デュアル・モード・ビークル）の初めての通年での運営年度となりました。

阿佐東線のご利用状況につきましては、定期外人員は43,876人（対前年比198.5%）、定期人員は900人（対前年比71.4%）となり、合計で44,776人（対前年比191.7%）となりました。

営業面につきましては、DMV運行開始1周年を契機としたプロモーション活動において、旅行会社向け商談会や旅行博等における誘客営業、沿線地域や交通事業者等と連携した利用促進イベント、駅や空港のほかJRや高速バス車両等を活用した交通広告、WEBメディアのほか、インフルエンサーを活用したプロモーションなど、積極的にDMVの情報発信を行い、認知度向上や利用促進に取り組みました。

また、地元中学生による職場体験や園児を対象としたDMV作品展や体験試乗会等により、マイレール意識の醸成を図ったほか、1周年記念グッズの発売、行政や議会、企業等からの有料視察受入開始により、運輸外収入の確保に取り組みました。

安全面につきましては、安全・安定輸送完遂のため車両の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、設備の点検・検査を確実にを行い、安全最優先で業務に取り組みました。

費用面につきましては、平成24年度から取り組んでいる「経営改善計画（令和4年度更新）」に基づき、人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施するとともに、維持管理費の国費活用を図りました。

損益につきましては、売上原価を差し引いた営業収益が27,952千円（対前年比210.0%）、営業費用が165,914千円（対前年比168.5%）、営業外収益が52,579千円（対前年比1045.7%）、営業外費用が1,290千円（対前年比98.9%）となり、当期経常損失は86,673千円（対前年比106.5%）となりました。これに経営安定基金からの助成金をはじめとする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純利益は2,351千円となりました。

また、旅客運輸収入については、コロナ禍における行動制限の緩和や多数メ

ディアへの露出等によるPR効果などもあって乗車人員が増加傾向となり、最終的には対前年を上回る25,893千円（対前年比232.0%）を計上しました。

今後も、車両自体が観光資源となるDMVの営業運行が「新しい人の流れ」を生み出し、当社の経営改善、並びに阿佐東地域への経済波及効果を最大限発揮出来るように進めて参ります。

また、地元住民と観光客の大切な移動手段として活用されるよう、当社の使命である安全の確保を最優先として、輸送人員と収入の確保、経費の節減に取り組んで参ります。

昨年10月、当社の前代表取締役専務が、鉄道事業法で定められた役員の欠格事由に該当することが判明したことを受け、一日も早い会社運営の再建及び事業継続に向けた体制整備のため、同月中に開催した取締役会において、同氏の代表取締役からの解職及び取締役の辞任届・退職届の受理を決議しました。また、国土交通省に対しましても再発防止策を報告し、了承を得ております。

当該次案に至ったことを真摯に受け止め、二度とこのような事態が生じないよう、引き続き社を挙げて法令遵守の徹底に取り組んで参ります。